

【実施報告書】

大規模災害時の避難生活を考える地域円卓会議

「南海トラフ巨大地震発生後、被災者を取りこぼさないためには」

日時 | 2026年1月25日（日）13:30～16:30（13:00～受付開始）

場所 | 高松市ヨット競技場（高松市浜ノ町67-1）

主催 | 香川県災害中間支援組織

（香川県、香川県社会福祉協議会、香川大学、日本赤十字社香川県支部）

協力 | 公益財団法人たかまつ讃岐てらす財団

*内閣府・令和7年度 官民連携による被災者支援体制構築事業・モデル事業

1. 開催概要



大規模災害時の避難生活を考える地域円卓会議

「南海トラフ巨大地震発生後、被災者を取りこぼさないためには」

日 時 | 2026年1月25日（日）13:30～16:30（13:00受付）

場 所 | 高松市ヨット競技場（高松市浜ノ町67-1）

着席者数 | 8名（論点提供者、司会、記録者含む）

来場者数 | 66名（行政、企業、自治会等地域組織、NPO・市民団体、教育機関、自営業、その他）

主 催 | 香川県災害中間支援組織

（香川県、香川県社会福祉協議会、香川大学、日本赤十字社香川県支部）

協 力 | 公益財団法人たかまつ讃岐てらす財団

*この会議は「内閣府・令和7年度官民連携による被災者支援体制構築事業・モデル事業」の一環で実施しました

*情報保障のため、サブスクリーンを設置し同時書き起こしを実施しました

【論点提供者】

公益財団法人たかまつ讃岐てらす財団 事務局長 澤田みのりさん

【着席者】※セッション①での自己紹介順

① 香川県危機管理総局危機管理課 課長補佐 合田健

② 香川県政策部男女参画・県民活動課 課長補佐 中原浩志

③ 社会福祉法人香川県社会福祉協議会 地域福祉課 課長 松本圭世

④ 公益社団法人高松青年会議所 監事/2024年度理事長 九十九太治さん

⑤ 特定非営利活動法人 ETIC. Co-Founder/シニアコーディネーター 山内幸治さん

【記録者】

特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく 代表理事 宮道喜一さん

【司会・進行】

公益財団法人たかまつ讃岐てらす財団 代表理事 大美光代さん

2. 開催の背景

『香川県災害中間支援組織』は、香川県域における「災害中間支援組織（NPO・ボランティア団体等の活動支援や活動調整を行う組織）」として、災害時の円滑な被災者支援を目指し、令和7年7月に設立されました。平時から県内外の支援関係者との「つながり」「顔の見える関係づくり」に取り組み、いざ災害が発生した場合には、その連携を活かして、被災地に入るNPO等のサポート・調整役となり、被災地での多様なニーズに対し、「支援のもれ・むら」をなくすために活動します。

災害時に被災者を取りこぼさないためにも、現状の災害支援の取組や実践者からの事実の共有を通じて、多様な主体と共に今後の取り組みを検討するべく、地域円卓会議を開催します。

3. 目的

- ・ 災害時に「支援のもれ・むら」をなくすために、現状の災害支援の取組や実践者からの事実の共有を通じて、多様な主体と共に今後の取り組みを検討する
- ・ 避難生活において自らも被災者となることを前提に、災害関連死を減らすためにできることを想定し、平時から必要なことに取り組むためのネットワークづくり
- ・ 防災や災害支援は活動分野ではなく、社会のモードと捉え、それぞれが自分ごとに落とし込む

4. 地域円卓会議とは

地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアと知見を持ち寄り、ネットワークを構築するための対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な視点を有するメンバーが一堂に会し、提示された課題を多角的な視点から考察し解決を目指して議論します。

なお、今回の円卓会議は「沖縄式地域円卓会議」を取り入れており、記録者の宮道さんは沖縄でも150回以上記録者を経験されています。

5. 当日のプログラムの流れ

時刻	内容
13:30	オープニング ・地域円卓会議について ・円卓会議の目的と進め方の案内
13:35	主催者挨拶（香川県政策部男女参画・県民活動課長）
13:40	論点提供 ・課題となっている論点を全体共有
13:55	<u>セッション①（兼着席者紹介）</u> 着席者より、課題についての事実や視点を共有してもらい、課題の解像度を高める
15:15	サブセッション兼休憩 着席者も加わって会場の参加者と小グループ（3～4人）で対話 ・ 参加者の気づきの共有 ・ 気になったこと、解決への具体策

15:50	<u>セッション②</u>
	再度、着席者が中心に集まり、ディスカッションを実施
16:20	ふりかえり・まとめ 記録を見ながら、会場全体で振り返る
16:30	終了

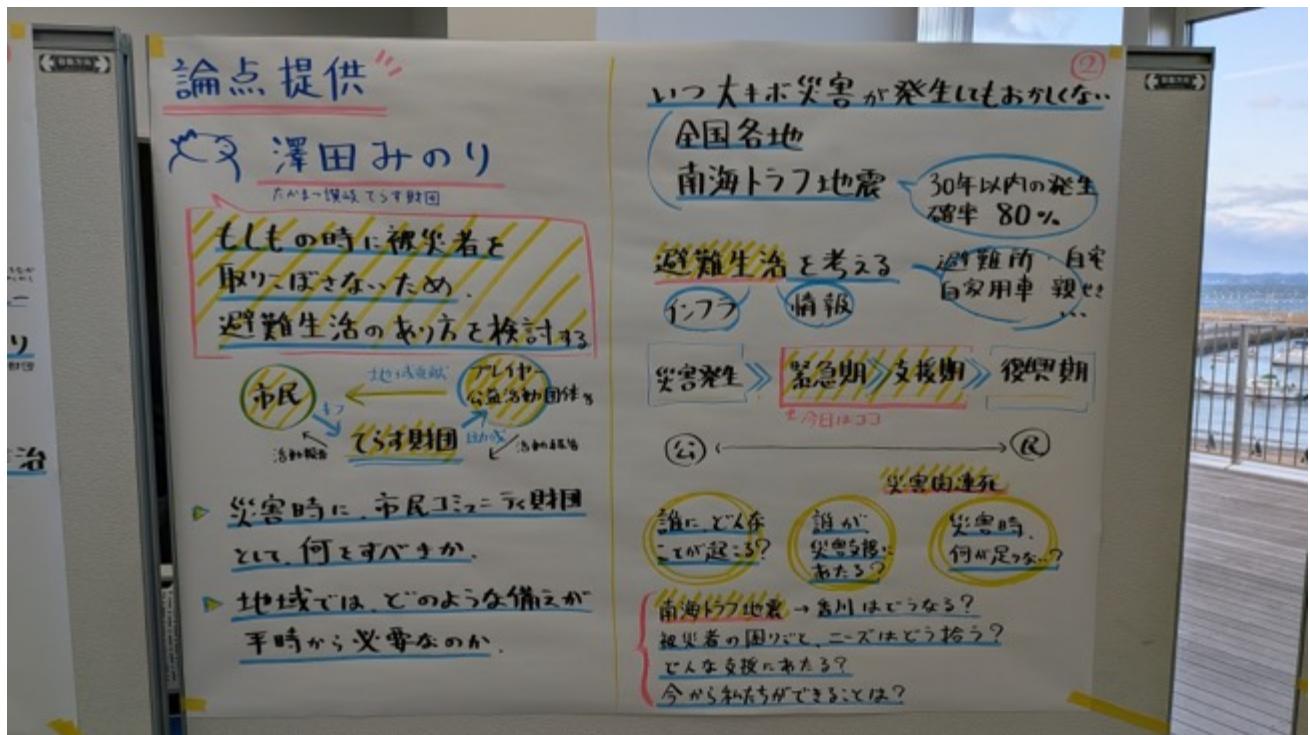
6. 各セッションの様子

論点提供

いつか来ると言われる大規模災害。全国各地で大規模災害が頻発し、南海トラフ地震の今後 30 年以内の発生確率は 60~90% 程度以上とされています。

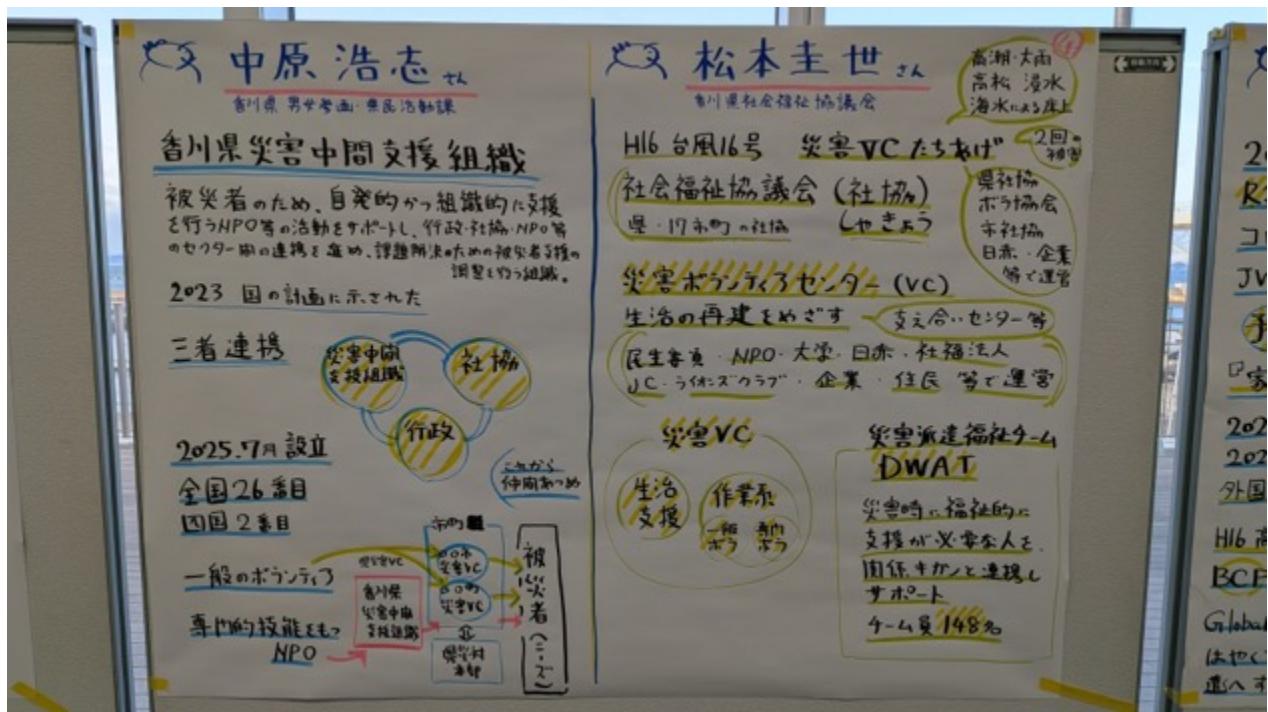
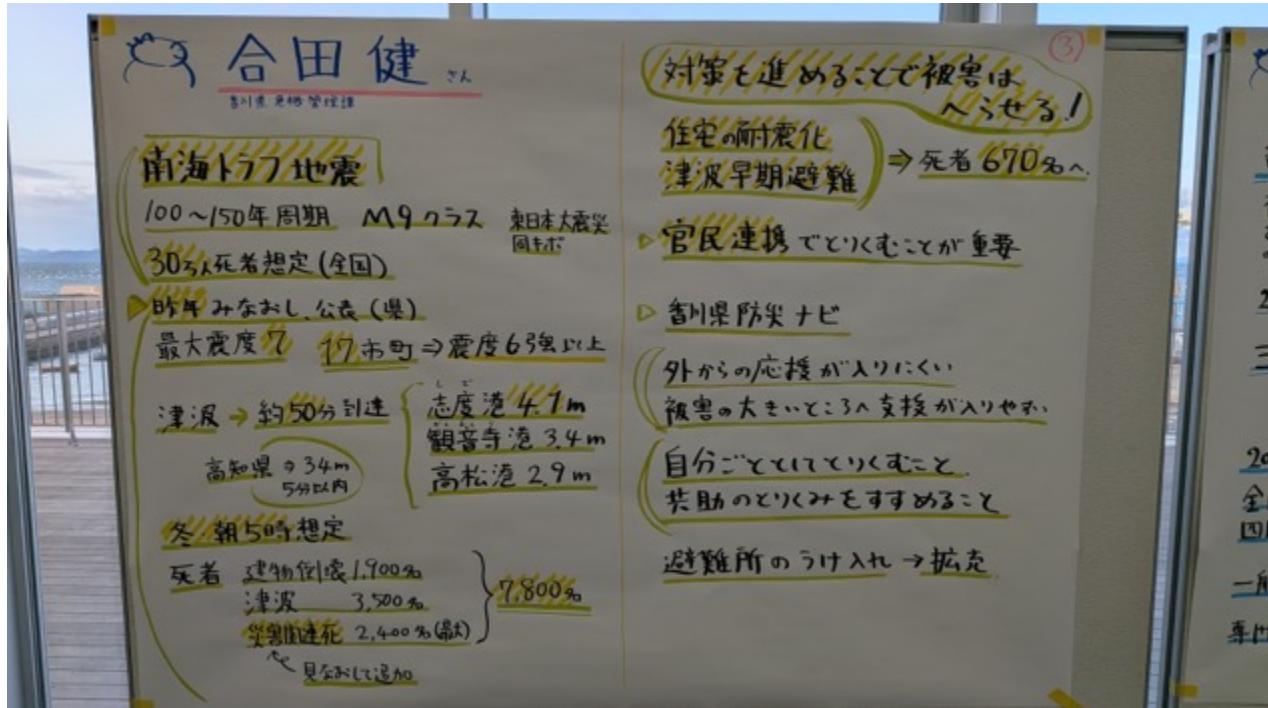
大規模災害が発生すると、生活の全ては災害支援一色になります。避難生活ひとつとっても、避難所で過ごす人、自宅や親戚、友人宅に身を寄せる人、車内で過ごす等、様々なケースが想定されます。また、災害フェーズとして「緊急期」「支援期」「復興期」と時間の経過と共に必要な支援も変化します。

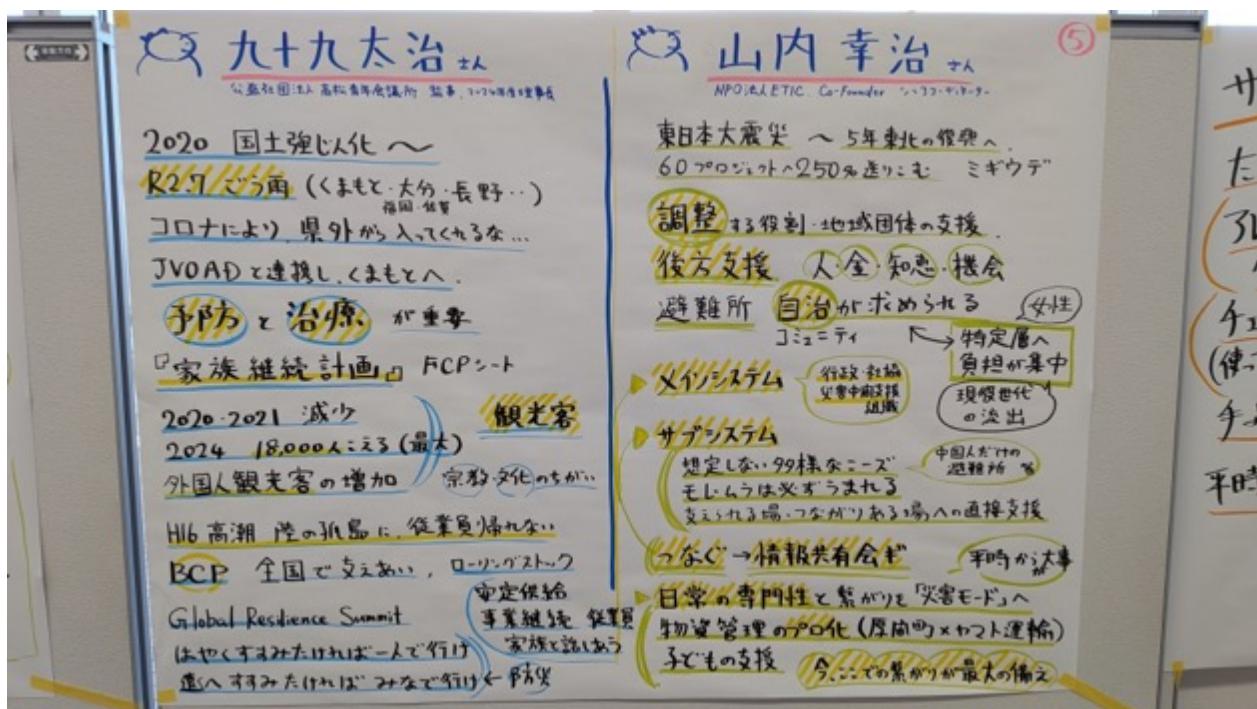
特に、支援期以降の課題の一つに災害関連死があります。災害関連死は防ぐことができるはずですが、誰にどのようなことが起こり、誰がどのように支援をするのかについては対話の機会が不足しています。大規模災害時に「支援のもれ・むら」をなくすため、何が不足しているのかと一緒に検討します。



セッション①

5 名の着席者から、それぞれの専門性や経験に基づく事実や視点の共有がありました。





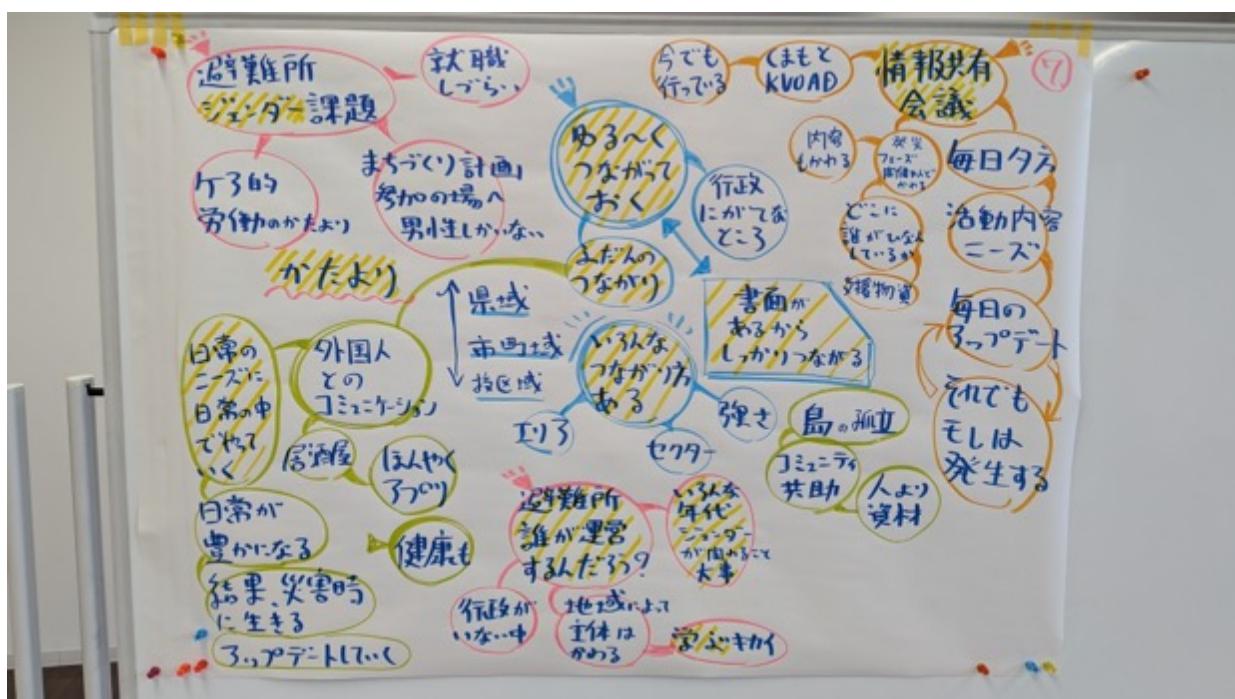
サブセッション

着席者も含め、会場内で3~4人の少人数グループになって、「誰がどのように困るか」「自分の団体は何ができるか」をテーマに視点を共有し、対話しました。

サブセッションでの話題は、多くの参加者がアンケートのフリーコメントに記入しています。

セッション②

再度、5人の着席者がセンターテーブルに戻って、サブセッションでの対話も踏まえつつ、テーマについて深めました。



振り返り・まとめ

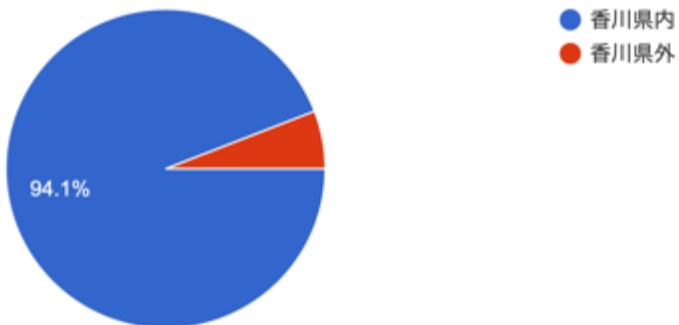
記録者の宮道さんが冒頭からセッション②までの対話や検討の様子を振り返りました。記録紙を見ながら会場全体で振り返ることで、円卓会議で共有された事実や視点、それぞれの現場で見えていた景色を参加者全員の共有知として認識することができました。

7. 参加者アンケート集計

回答数 | N=34 (一般参加者 66 名、回答率 51.5%)

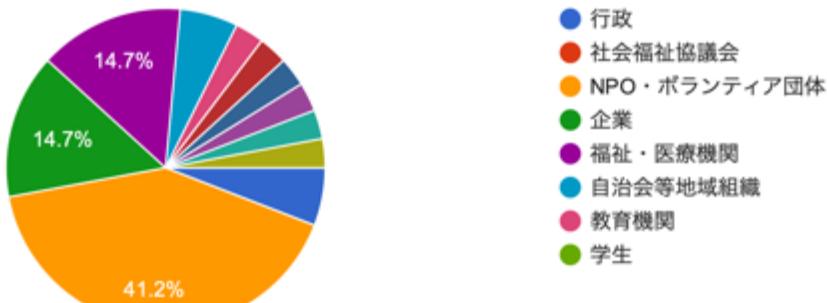
どちらから来られましたか？

34 件の回答



所属を教えてください。

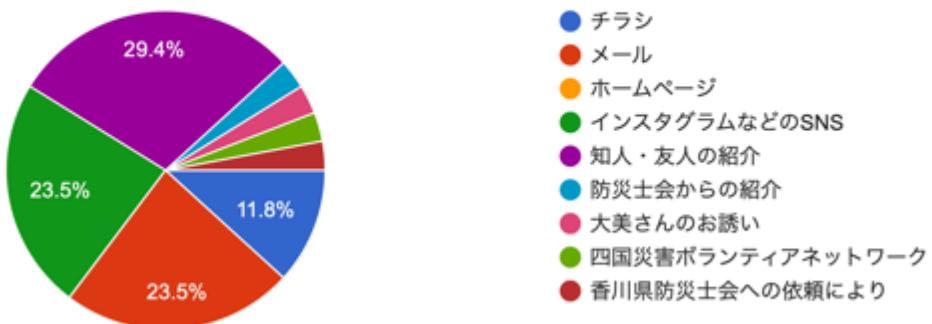
34 件の回答



▲ 1/2 ▼

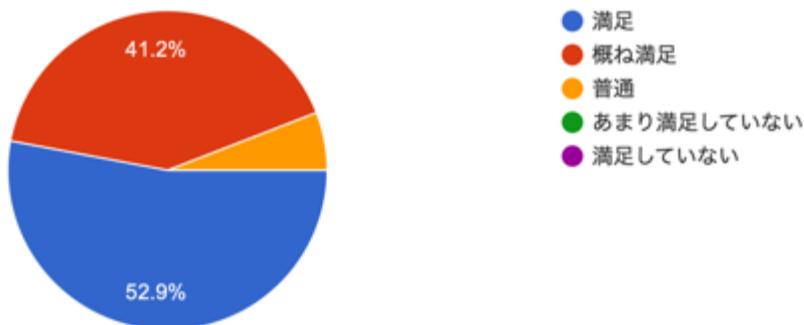
この会議をどこで知りましたか？

34 件の回答



会議に参加しての満足度を教えてください。

34件の回答



上記満足度の理由を教えてください。 ※原文のまま記載しています

満足

- 異業種との意見交換ができた。
- 災害に備える心構えが、ふわあとしたものであったが、より具体的になった
- 日常の大切さを改めて考えさせられた
- やろうという方が2人くらい見つかりました
- 避難生活に向けてイメージが少し湧いた
- いろいろな要素の方が集まっていて、とても新鮮でした。
- 課題を共有できたことと、同じように感じている人がいるってわかったこと。
- 参加者が多く、見識を深めることができた。意見交換も沢山できた
- 知識として知ることができた、顔見知りができることも防災の上で大切だと思ったのでその機会にもなった
- 防災に関してのこれから活動を考えるヒントになった
- 県内のプレイヤーを概ね把握できたため。また、避難所の運営について、運営の練習や想定を地域コミュニティ内でしておくないと災害時にパニックになるということが理解できたため。
- 行政、企業、ソーシャルセクターなど多様な人たちの認識をあわせる場であるとともに、つながりを育むことができた場で、今日のつながりが災害時の支援へつながる一歩だったと感じています。
- 様々な視点から、大規模災害時にどんなことが起こるのかという心構えを知ることができ、災害関連死を防ぐために何をすべきかというヒントを得ることができたから。
- また、円卓会議というものがどういうものか実際に体験できてよかったです。グループ討議を通して、今まで関わりを持ったことのない職種の方と知り合えたことも良かった。
- 香川県における災害に関するキープレイヤーの皆様の存在と連携具合を知ることができました。
- とっても分かりやすく事例報告やシェアタイムでした
- 災害時までの課題が何なのかが理解できました。

概ね満足

- 空調が効いていなくて寒かった。内容はとても良かったです
- 知らない情報をしたり、直接ボランティア活動されている方と会話できて良かったです
- 自分の知らない情報もあり、ためになった。
- 緩やかなつながりの第一歩が踏み出せたと思うから
- 行政・民間・団体のそれぞれの役割の整理と視点が知れた
- 説明部分が少しボリュームが多くあったかもしれない。グループでどんな話がでたかもう少し聞きたかった。会場内にどんな人たちがいるのかを知りたかった。
- 広く防災ボランティアの交流の場
- 参加している方々がどんな団体の方なのかがわかると参加者同士で話したり、協働することもできるのではないかと感じたからです。また、自分がここに参加してよいのか？というのもわかりやすくなるのではないかと感じました。
- 具体的な点に焦点していた。
- 日ごろから、ゆるくつながっていることが重要であるということを再確認いたしました。
- 色んな職種の人と災害について意見交換することができて今後の参考になったから。
- 多様な参加者の方とワークショップ時に知り合いになれた事と、5名の方々のご説明で現在の課題等も含め、現状がわかったからです
- 色んな方面からの集まりを企画する事により今後についてや考え方を定めていくところ

普通

- 現状の把握や問題点がわかった。
- 若い年齢層の人たちが、多く参加していたこと。

本日の議論の中で、印象に残ったこと、良いアイディアだと思ったことを教えてください。

※原文のまま記載しています

- いろいろな団体が集まって防災を考える会議があること
- いろいろな人がそれぞれの立場で災害の備えた考えを持っていること。
- 日常を豊かにする視点が大切
- 日常生活の延長ということは、日常生活に問題があると、それを先送りにしてたらやばい。地域リーダーの超高齢化など。
- 行政、社協、民間などステークホルダーがゆるく繋がりを持つという点は非常に良いと思った。ゆるく繋がるだけでなく、そのつながりを維持する仕組みづくりをしていけば良いと思うし、この連携を市町から県、四国と広げることも将来の相互補助のために必要だと思う。
- 県危機管理課の合田さんが、避難所は誰が運営するんだろう…と思っていた、というのは結構衝撃で、避難所運営の現場を担う（つもりの）地域コミュニティの関係者としては、今後、ぜひ中間支援組織の中で、避難所運営を支援する視点も入れていただけるとありがたいなと思いました。
- 調整役の存在が大事であること、地域のリーダーが必要になることを伝えていく必要があること、

仲間とゆるやかにつながること、日常生活の延長線上に有事の時を考えてみること

- ・ 宮道さんの記録がすごかった。記録にも記憶にも残る会議だった
- ・ 意外にも島の方が地域連携がとれていることは、なにかヒントになりそうだと思った
- ・ 避難所を誰が運営するのかなど、やるべきことにどう人を繋げるかという視点
- ・ 防災という意識ではなく、日々をより良くするという意識で取り組むと自然に防災につながるという考え方方が印象に残った。また、県の危機管理課としては島においてはコミュニティがしっかりとしているため、物資をどのように届けるかという課題感を持たれている点は遊覧船事業をしている弊団体でも協力可能だと思った。
- ・ 最後に可視化したものを振り返りできたことで、インプットが高まりました。
- ・ 防災のためと堅く考えるのではなく、普段から行っている、便利に暮らすための工夫が非常時にも役立つということ。日頃から顔の見える緩い繋がりを持っておくことが何事においても大切であることを学んだ。香川県にこのような取り組みがあることが嬉しいと思った。
- ・ 他業種連携というと、堅苦しい会議を企画して書類を交わし、議論を重ねなければならないというイメージがあったが、聴覚障害児教育における教育と行政、医療、福祉の連携もまずは顔の見える繋がりを作り、大切にしていきたいと思った。
- ・ 災害専門で活動してきた方ではないファシリテーターが市民に近い目線でカジュアルな形で会議をコントロールしていた点。またその下ごしらえを災害関連の様々な団体がしっかり協議をして実施されていた点。
- ・ 「災害対策は、日常の延長状に」普段使いできるパッククッキングセミナーを開催しているため、かなりリンクしました
- ・ 普段使いのツールが、災害時にも役立つようにしておくこと
- ・ 社会福祉法人としての災害時の役割
- ・ 日常の関係と地道な活動の大切さを確認できましたこと。
- ・ 日頃の強みが、災害の時に役立つ
- ・ 円卓会議の板書の凄さ、まとめて10分で発表わかりやすかったです
- ・ 普段の生活が豊かになるツールやアプリを使い慣れておくこと。
- ・ 円卓会議という形式が良かったと思います。
- ・ 防災・災害対策は日常の豊かさと地続きで、延長線上にあるという事
- ・ 支援から漏れる対象の幅広い考え方
- ・ グループ内で、家族やパートナーがエッセンシャルワーカーや、インフラに関わる仕事をしている場合には業務のため帰宅ができなくなることもあるので、危機感を持ったり、非常時の対策を身近に考え、家族と共有していると感じた。
- ・ 意見交換会 もう少し時間を長くすれば良い
- ・ 未曾有の災害に対して、なんのすべもなく立ち尽くすのではないかと不安になるが、今回の円卓会議に参加する人たちとの出会いも防災につながることであるということを感じました。
- ・ 議論の内容をまとめて最後に見える化して、確認できる手法
- ・ 短時間なので主張したいところが満載だった分時間が足りなかったとは思います。後ろに全て書き出してるところはいいアイディアだと思います。

8. 当日の会場の様子

9. 開催後の SNS 上でのシェア

寒風吹きっさらす海沿いをチャリをこぎまくりアイドルのコンサートを感じながら、大約場のヨット▲のとこへ
てらす財団という中間支援組織の円卓会議へ参加
すげえボテンシャルを感じた1日
てらす財団の以前の何かの会で、『防災本気で取り組みます！』っと言ってたのがわかった気がする
災害の少ない香川県で『誰が何をどんだけできるか？』をドンドン広げて南海トラフの被害を減らす事、心より祈るだけでなく、またちっちゃい事やけど何かやろう！

今日の午後はこちら
大規模災害の避難生活を考える地域円卓会議
ちょい遅刻だったのですが、会場いっぱいの参加者さんの熱量を感じる。
話題提供、センターサークルのみなさんの投げかけに様々な思考が巡る時間となりました。
心に残ったのはやはり支援があっても調整力が不可欠であること。これは先日の子ども食堂関係のフォーラムでも感じたこと。
そしてメインとサブ。
そう思えば、私が普段やっているのはサブで、よりスピード感をもって、そこそこのニーズを理解して調整してつないでいます。
が、よりしっかりと進めていただきたいところは、ここ、そこ、と考えながらお頼みしています。ここがメインなのかも。
そしてなにより普段の活動、つながりがベースになることを確認し、「もしもにつながるいつもの活動」など自慢したい活動がいっぱいあるぞと声を大にして叫びたい気持ちで今日のミッションは終了です！

午後は、ヨット競技場の大会議室で、「大規模災害時の避難生活を考える地域円卓会議」！
日常生活の延長上で大規模災害時の対応をするのが有効とのこと。となると、日常生活のシステムが機能しないとマズい。
僕のディスカッションチームでは、「避難所を仕切る地域コミュニティのリーダーが既に後期高齢者。自治会に所属していない経験値高い若手がその状態でリーダーになれるのか？」との議論がありました。今の地域コミュニティのガバナンスを震災に備えたカタチに変えていく必要を感じました。
今日はかがわガイド協会の事務局長の立場で参加してたんですが、ガイドはその時その時の持ち場で、リスクマネジメントの全権を荷うのが前提です。指揮命令系統が明確。本部の意向など確認してては死人が出ます。この覚悟があるのがかがわガイド協会のガイド。
そのガイドたちがチーム連携できるように、日々精進し、ガイドの現場で経験値を上げ、三豊干拓地や御坊川の大作戦で困難な現場を共にして鍛えてます。県、社協などが担うメインシステムに対して、まさにギラ的なサブシステムになれるなあと思いつながら聴いてました。
さあ、いろいろ形にしないといけませんねー。災害は待ってくれません。
今回、行政主催ながら、たかまつ讃岐てらす財団の大美さんと澤田さんが運営進行したので、たくさん市民セクターが参加したと思います。この流れも大事ですね！

大規模災害の避難生活を考える地域円卓会議
地域の顔が見えるゆるやかなつながり
協定を結ぶような強固なつながり
どちらも大切で
平時のから育めるものがある
グループトークで同じグループになった方から
ヒントを得まくりで。
お一人は、歯医者さんとのことで
避難時の口腔衛生について聞かせていただいた。
意外と避難袋に歯ブラシ入れてない人も多いって。
どき
うちも入れてない...
帰って入れんとやな。
今日のこの場がまさにゆるやかなつながり。
運営の **たかまつ讃岐てらす財団** さん
気づきをありがとうございます！

大規模災害の避難生活を考える地域円卓会議
興味のある人たちが初めて集まった会議だったのではないでしょうか？
分野も関心事も様々なので、どう進めていくのか難しいところもあるのかなとも思いますが、
「早く行きたければ、一人で進め。遠くまで行きたければ、みんなで進め」
思いを一つに、各自持っているものをいかして遠くまで行きましょう！

【大規模災害の避難生活を考える地域円卓会議】
今日は参加者。
テーマも進め方にも興味アリアリで参加して、案の定色々刺激を受けてきました。
行って良かったー！
企画運営してくれた **たかまつ讃岐てらす財団** のみなさま、ありがとうございました！！